

## サウジ原油調整金 2ヵ月連続割り引き 11月積み、需要戻らず

サウジアラビアの国営石油サウジアラムコは日本の石油精製会社に対し、アジア向け原油に適用する11月積みの調整金について、主要4油種を

2ヵ月連続で指標価格から割り引くと通知した。航空機燃料など石油製品の需要が戻らず、製油所の原油調達が低迷していることを映した。

2020年11月積みの  
サウジ産原油の調整金  
(1バレルあたりドル、+は割  
増金、-は割引金、カツ  
コ内は前月比増減額)

スーパーライト	+0.85 (+0.30)
エキストラライト	-0.6 (+0.20)
ライト	-0.4 (+0.10)
ミディアム	-0.3 (横ばい)
ヘビー	-0.3 (横ばい)

代表油種「アラビアンライト」は、指標価格に対して1バレルあたり0・40ドルの割り引きとし、10月積みから0・1ドル上がった。軽質の「エキストラライト」は0・60ドル割り引き同0・2ドルの上げ。原油安による製油所の利幅などを考慮して割引額を小幅に圧縮した。

日本の石油会社がサウジから長期契約で調達する原油の価格はドバイ原油とオマーン原油の月間平均を指標とし、油種別に調整金を加減して毎月改定する。

2020 年 10 月 7 日

担当者: 小松

8月の原油輸入量(エネルギー発表)

1164万kl、前年比76.1%

中東依存度88.1%で変わらず

資源エネルギー庁が(七・〇%、七八・〇%、五一・五%)と発表した八月分の石油統計速報によると、原油輸入量は一六四万キリで、前年同月比七六・一%と、八カ月連続で前年を下回った。中東依存度は八八・一%と、前年同月と同様となった。

輸入量のトップは、サウジアラビア(構成比四五・三%、前年同月比一一六・〇%以下同)。以下、アラブ首長国連邦(二四・八%、五三・一%)、クウェート(八・六%、七七・九%)、ロシア

2020年8月分の原油輸入明細 (単位:kl, %)

地域・国名	8月数量	構成比	前月比	前年同月比
サウジアラビア	5,275,793	45.3	115.2	116.0
アラブ首長国連邦	2,884,783	24.8	82.3	53.1
カタール	811,251	7.0	102.9	51.5
クウェート	996,336	8.6	142.6	77.9
バーレーン	131,267	1.1	56.3	54.6
イラク	152,719	1.3	-	92.3
中東計	10,252,149	88.1	104.6	76.1
マレーシア	30,331	0.3	20.7	87.3
ベトナム	47,393	0.4	-	51.1
南方計	77,724	0.7	51.6	44.3
ロシア	812,376	7.0	691.8	78.0
欧州計	812,376	7.0	691.8	78.0
アメリカ合衆国	54,104	0.5	-	29.4
北米計	54,104	0.5	-	29.4
エクアドル	337,581	2.9	306.9	126.2
中南米計	337,581	2.9	306.9	126.2
アルジェリア	69,520	0.6	84.2	-
アフリカ計	69,520	0.6	84.2	165.6
オーストラリア	33,555	0.3	86.0	32.6
大洋州計	33,555	0.3	86.0	32.6
合計	11,637,009	100.0	113.0	76.1
原油受入量	11,671,872	-	112.8	76.1
原油処理量	11,572,362	-	111.9	73.4
原油月末在庫	13,355,744	-	100.6	103.7

油米報知新聞

引用記事 : 日本経済新聞 ・ 燃料油脂新聞 ・ 化学工業日報

## ナフサ生産量 2.8万キロトル増加

石連週報

石油連盟がまとめた石油製品統計速報（9月13～19日）によると、ナフサの生産量は21万9188キロリットルで、前週の19万1164キロリットルから2万8024キロリットル増加した。在庫量は132万2187キロリットルで、前週の141万2274キロリットルから9万87キロリットル減少した。

## 溶剤を30円幅

ダウ・ケミカル日本

ダウ・ケミカル日本は、10月21日出荷分からプロピレン系グリコールエーテル溶剤を値上げする。改定幅は1キロリットルあたり30円。原料の高騰によって採算が悪化するなか、安定した操業と供給を維持するため価格改定を決めた。

対象製品は塗料や電子機器向け洗浄剤のほか、家庭用洗浄剤やシンナーなど幅広い用途で利用されている。

## TDI 40円超

三井化学S.K.C  
ホリウレタン

三井化学S.K.Cホリウレタンは、10月15日納入分からトリレンジイソシアネート（TDI）類を値上げする。改定幅は1キロリットルあたり40円以下。一昨年末から市況が低下するなか、コストダウンや合理化に取り組んできたが、自衛努力の限界を超えている。一方、海外市況は今年8月初旬から急騰。1キロリットルあたり2500円を超えるレベルに達し、内外価格差が拡大している。海外中況の高騰とタローハルな供給サイド感は当面続くこととみられ、国内での安定供給を確保するためには、価格を見直しざるを得ないと判断した。

諸原料の高騰、原料調達先の製造設備停止にともなう代替品調達体面の整備、自然災害発生時の安定供給体制構築などによるコスト増も背景にある。

価格については「下落幅が縮小する可能性が高い」との声も聞かれる。

## アジアベンゼン下落

5カ月ぶり 4.5%安、原油下落で

合成樹脂や合成ゴムの原料となる基礎化学品ベンゼンのアジア向け価格が下落に転じた。指標となるENEOSの10月の契約価格は1ト425ドルと、前月に比べ20ドル（4

・5%）安い。値下がり率は5カ月ぶり。原油価格の下落に加え、中国の供給能力の増加が響いた。アジア市場ではベンゼンのスポット価格が1ト400ドル前半を中心に

推移する。米景気の回復が鈍っているほか、欧州の新型コロナウイルス感染症再拡大などで、原油の上値が重く、ベンゼンの下げにつながった。

各国の製油所の稼働率が上昇、アジア域内の供給は潤沢だ。「米国の取引価格がアジアとほぼ同水準にあり、アジアから米国への輸出が増えている」とい、需給が緩んでいる。

## プラスチック添加剤

# 厳しさを続くも新たな展開模索

プラスチック添加剤は、プラスチック本来の優れた性質を維持し劣化を防止したり、弱点を補って新しい機能を付与したりするために使用される。具体的な需要は、使用量が大きい汎用プラスチックの需給に左右されるため、昨年から今年にかけては厳しい状況が続いている。とくに、新型コロナウイルス感染症拡大により、政府が緊急事態宣言を出した期間は、国内の自動車生産が一時的にストップしたことなど大きな影響が出ている。足元は需要は上向きに戻つつあるが、添加剤メーカー各社にとっては新しい状況に合わせた事業推進が課題となっている。

プラスチック添加剤には、劣化を防止する塩化安定剤や酸化防止剤、光安定剤、紫外線吸収剤を付与する難燃剤、帯電防止剤、造粒剤、加工時の成形性を高める滑剤など、さまざまな製品が存在する。昨年は、米中貿易摩擦が続くなかでクロハル経済が減速し、自動車の買い控え、スマートフォンの販売不振などの影響もあり、厳しい状況で推移した。今年に入ると、新型コロナウイルスの感染拡大で世界中の経済が大きなダメージを受けている。

自動車関連低速、回復は秋以降か  
プラスチック添加剤の需要は、最も消費の大きい自動車関係のほか、電子機器・家電製品、住宅・建材関係、食品包装関係などがメインとなる。ただ、今回のコロナ禍のもとで、用途によっては若干の厚みはみられた。とくに厳しかったのはやはり自動車に関連する分野だ。生産調整が懸念されており、自動車生産自体はここへ来て平準のペースを取り戻しつつあるものの、プラスチックの素材が動き出すまではタイムラグがあるため、本格的な回復は早くても秋以降になると見られており、建材関係や一般プラスチック製品も同様の動きで、塩化安定剤や汎用酸化防止剤は低調となっている。

食品包装堅調、パソコンなど急成長  
一方で、食品包装関係は堅調。ただ、この用途は添加剤が少ないため、伸びている製品もあるようだ。が、較重的な貢献度はそれほど大きくない。また、テレワークや巣ごもり需要が生まれたことで、パソコンや周辺機器、テレビゲーム機などが急成長しており、これらに使用される添加剤は好調と見られている。とくに、難燃剤の動きはいいようだ。

製品づくりに加えデジタルも活用  
プラスチック業界は、ただでさえほろいだが、直接消費者訪問がしづらい状況になっているため、営業面でこれまでとは違う努力が必要となっている。例えば、いわゆるデジタルマーケティングへの取り組みや、オンライン展示会への出席、ウェビナー開催などを通じて顧客との接点を確保しようとしている。業界が乏しいが、大手でも積極的だったというところが多い。これからは、製品づくりの強みだけでなく、デジタルの活用でも顧客レベルを上げる時代になるだろう。

先ごろ就任した国土交通省の吉岡幹夫道路局長が1日に会見し、国土強靱化対策や道路事業におけるコロナ対応などについて述べた。

◇…就任の抱負は。

「コロナ禍のなかにおいても道路の管理は継続しなければならない。われわれの仕事は非常に大事だと責任を感じている。エッセンシャルワーカーである物流業者を支えているのが道路である。コロナ禍で人の移動は制限されたが、モノは動いたお陰で人々の暮らしを支えることができ

## 国土交通省

### 吉岡 幹夫 道路局長

責任持ち国民・利用者目線で



◇…道路行政のDX（デジタルトランスフォーメーション）は。

「生つゝの視点がある。策についてはいかがですか。」

鉄道とつながっているのライオン化・タッチレス化で、他の交通機関とも連携しながらやっていきたい。DXは社会に還元することが大事だと思う。

◇…道路の国土強靱化対策についてはいかがですか。

た。暮らしや経済を支える大事な仕事をしているという責任を持って仕事をしたいと思う。国民の目線、利用者の目線で仕事をしていきたい。道路は空港、港、おいてはできるだけオンライン

## DX、省人化を徹底

「日本は自然に恵まれた国だが、それが時と場合によって脅威になる。道路には早く現地に緊急車両が行けるようにすること、早く復旧しているいろいろな活動ができるようにすること」

◇…道路事業におけるコロナ対応は。

「新型コロナウイルス感染症対策に対応した国土幹線道路施策の中間と

とが求められている。高速道路を4車線化しておいたことで豪雨による災害時にも早く復旧できた。国道と高速道路をつなぐ組み合わせるネットワークの連携も大切だ。老朽化によるメンテナンスも重要だ。例えば隅田川の橋は関東大震災後にかけられたが、手入れを怠ってきた結果、今でも十分使える。次世代に良好な状態で引き継ぐことが極めて大切だ」

◇…道路事業におけるコロナ対応は。

「新型コロナウイルス感染症対策に対応した国土幹線道路施策の中間と

とが求められる。高速道路を4車線化しておいたことで豪雨による災害時にも早く復旧できた。国道と高速道路をつなぐ組み合わせるネットワークの連携も大切だ。老朽化によるメンテナンスも重要だ。例えば隅田川の橋は関東大震災後にかけられたが、手入れを怠ってきた結果、今でも十分使える。次世代に良好な状態で引き継ぐことが極めて大切だ」

◇…道路事業におけるコロナ対応は。

「新型コロナウイルス感染症対策に対応した国土幹線道路施策の中間と

# ウメト インフォメーション

2020年 10 月 7 日 担当 小松

▶日本道路、花王/廃PETから高耐久アスファルト開発/100平米で1500本再利用 [2020年10月7日3面]



青森市内で試験施工し、品質と施工性を確認した

日本道路と花王はPET樹脂を再利用した高耐久アスファルトを共同開発した。廃プラスチックの処理が社会課題となる中で、舗装に再利用できるようにすることで環境に貢献する。100平方メートルの舗装面積で約1500本分のペットボトルが再利用できる。日本道路によると廃PETを再利用した舗装の開発は業界初という。

2021年から廃PETを再利用したアスファルトの販売を開始する。重交通道路、物流施設、高速道路のPA・SAなど、耐久性が求められる箇所への適用を想定。日本道路は今後、従来の高耐久性舗装の半たわみ舗装に代わる舗装として全国に展開し、年間20万平方メートルの施工を目指す。

指す。

両社が昨年共同開発した高耐久性アスファルト「スーパーポリアスコン」を改良した。スーパーポリアスコンに添加している花王の高機能アスファルト添加剤「ニュートラック」に化学処理した回収PETなどを混ぜ、アスファルトに混練して製造する。青森市内で試験施工を行ったところ、従来のスーパーポリアスコンと同等の品質・施工性を確認した。

耐久性が高く、ライフサイクルコストの削減が期待できることに加え、環境負荷の低減に貢献できる点が特長。半たわみ舗装と同等の耐久性を持ちながら、施工時にはセメントミルク工が不要で半たわみ舗装と比較して工程を50%短縮できる。

日本道路営業本部の井澤克則技術営業部長は「従来のスーパーポリアスコンと廃PETを活用したスーパーポリアスコンを併用しながら徐々に廃PETを活用した方の比率を高め、環境問題に貢献していきたい」と話している。

廃PETの処理を巡っては、日本の主な処理先国だった中国が17年に廃プラスチックの輸入を禁止。国内での処理方法が課題となっている。

